

島根県立石見美術館 企画展「めがねと旅する美術展」美連協奨励賞 受賞のお知らせ

美術館連絡協議会が優れた展覧会企画を顕彰する「美連協大賞」の2018年の受賞結果が公表され、島根県立石見美術館で開催した企画展「めがねと旅する美術展」(平成30年9月15日～平成30年11月12日)が美連協大賞「奨励賞」に選ばれましたので報告いたします。

記

美術館連絡協議会 美連協大賞「奨励賞」

展覧会名：「めがねと旅する美術展」

美術館名：青森県立美術館(工藤 健志)・静岡県立美術館(村上 敬)

島根県立石見美術館(川西 由里)

※上記3名はジャンルの垣根を越え、広く視覚文化について考察する展覧会の開催を目的とし2008年に結成された学芸員の研究チーム(トリメガ研究所)

トリメガ研究所としては、「ロボットと美術」「美少女の美術史」に続いての奨励賞受賞となります。

めがねと旅する美術展 HP

<http://torimega.com/megane/>

展覧会概要：

「めがね」を見る為の補助器具としてではなく、世界を知るための、あるいは見えないものを見るためののぞき窓としてとらえた展覧会。遠く離れた景色を望遠鏡のように間近に見せる風景画や、普通では見えないものを露にする透視画、レンズや錯視の効果を利用した「だまし絵」、最先端のVR(ヴァーチャルリアリティ)など、江戸時代から現代までの多彩な作品で視覚の世界を紹介した。

展覧会のために制作した新作アニメーション「押絵ト旅スル男」は、江戸川乱歩の小説「押絵と旅する男」を元に、気鋭の映像作家・塚原重義氏が監督した、芸術性の高い作品。

展覧会ホームページ、Facebook、twitter で情報発信し、マスコミの事業部や企画会社に頼らない、地方発の意欲的な企画として話題を呼んだ。